

令和7年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会
第1回啓発研修部会・地域支援部会の合同会議

- 1 日 時 令和7年7月28日（月） 19：15～20：45
- 2 場 所 オンライン開催
- 3 出席者 （出席） 石井委員、石上委員、小作委員、小長井委員、近藤委員、
成島委員、矢野委員、吉永委員
（欠席） 平野委員
（事務局） 地域包括ケア推進課 在宅医療・介護連携係
橋本係長、平川主査
- 4 傍聴人 0人
- 5 次 第 （1）開会
（2）会長挨拶
（3）議事
①協議事項 市民向け周知及びACP（人生会議）の推進について
②報告事項 在宅医養成研修等について
（4）閉会

6 会議内容

- （1）開会 開会宣言及び会議成立の報告（委員7名の出席により会議は成立）
- （2）挨拶
- （3）議事

①協議事項

事務局

資料説明 市民向け周知及びACP（人生会議）の推進について（資料1、参考資料1、2）

矢野委員

7/19に行ったイベントの報告だが、ソーシャルワーカー自体の普及啓発を目指す活動として社会福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会、精神保健福祉士協会、学校連盟の協力の下、実施した。イベントの中で、もしばなゲームを実施し、エンディングノートの配布をした。本来なら安倍川花火と同時開催だったので、エンディングノートを200冊用意したが、花火が中止になってしまい、結果87冊を配布した。

ヨーヨーや射的などのイベントもあったので、お子様連れの若年層が多かったが、エンディングノートの趣旨を説明すると、若い方が快く受け取ってくれた。エンディングノートという名称のせいか、逆に高齢の方は拒否する方が多く、60～70 代男性はほとんど断られてしまった。

吉永部会長

高齢になってくるとリアルな話になってくるので、話の持って行き方が難しい。

広め方に関しても、どういうタイミングがいいのか我々の中でも共有するといい。

医療の現場では、そういうタイミングというのはすごくあるのかなと思うが、診療の合間だとなかなか時間が取れない。成島先生は工夫されている点はあるか。

成島委員

入院のタイミングで話を聞くようにしている。がんではないが肺炎等で入退院を繰り返す方や、弱ってないけど、そこそこ高齢の方だったり、重篤、認知症などで本人の意思が確認できない場合は、そういったタイミングでご家族から推定意思を確認したりしている。

また、今回の入院で亡くなってもおかしくない場合は最終段階の確認をするようにする。話をする際には、入院するみんなに聞いているといった一言を入れるようにして、患者が答えやすくするよう工夫している。

吉永部会長

唐突に言われると身構えてしまうので、ACP が共通認識として浸透してくるといい。

小長井委員

エンディングノートの配布状況について、いい感じに配れているのかなと思うが、ケアマネジャーや介護事業所の割合が少ないのではないかという印象。病院や包括の数字は、あくまで配架した数ということでいいか。

事務局

部数の関係もあり介護事業所には積極的に周知できていなかったかもしれない。

今年度は増刷も行う予定なので、もう少し周知を強化してもいいかなと考えている。

小作委員

包括支援センターとしては、とりあえず将来を見据えて相談に来る方が多く、その際にエンディングノートを活用し、ここから先のことを考えていくツールとしてお渡ししている。そのため、長田包括支援センターでは在庫はほとんどない。ちなみに、市民に直接というのはどういう形か。

事務局

地域包括ケア推進課の窓口に取りに来られる方も結構いる。自分を書いてみてすごく良かったので、友達に紹介したいと何部か貰っていく方もいる。

また、出前講座で配布した数なんかも含まれている。

石上委員

老人福祉センターでエンディングノートの作り方という講座があり、参加したのだが、参加者が多く、意識の高さを感じた。遺産に関することを気にされる方が多かった印象である。

吉永部会長

エンディングノートに登録・伝達制度の内容が載ってくるのは次の改訂からか。

事務局

本日の部会の承認をいただければ、8月早々にはこの内容を反映させた上で増刷を予定している。

矢野委員

確認だが、今度増刷する際には、参考資料2の最後にある事業チラシも組み込まれるのか。

事務局

事業チラシは本日の部会用に参考資料として添付したものであり、エンディングノートには組み込まない。

矢野委員

それではエンディングノート内には終活情報登録・伝達事業の詳しい説明は載ってこないということでもいいか。

事務局

表表紙1枚めくったところの説明文のみである。

矢野委員

自分も説明を受けたが、登録するのに結構手間がかかるという印象であった。

区役所窓口で登録する項目も多く、時間もかかりそうなので、登録のハードルが高いなど感じてしまった。そのため、この事業自体の周知もしっかりやらなければならず、エンディングノートの冒頭にある記載のみでは、理解していただけないと思う。

成島委員

イベントで若い人の方が配布できたという話やタイミング、話の持って行き方が難しいといった話があったかと思うので、この手の普及啓発をする際に、伝えたい対象にどうやったら伝わりやすいかというのを聞けばいいのではないかと。市民向けの調査もやるようなので、伝えたい人たちから、どうすれば伝わるか意見を募るのも面白いと思う。

小作委員

登録・伝達事業について、登録をされると手持ちのカードと掲示用のカードが配布されると伺っている。まだまだ登録者も少ないと聞いている中で、エンディングノートの随所にこのチェック欄があると、内容を知っていると意味はわかるものの、知らない人を見ると、少ししつこく感じてしまう。

事務局

たしかに事業の内容を知らない方が見ると戸惑うかもしれない。担当課としては登録・伝達事業を推進したいという思いでこういったものを入れてほしいという要望があったが、残り部数が少なくなっていることもあるので、事業案内のみ入れるべきなのか、現時点では時期尚早なのかなど本日の部会でご意見をいただきたい。

吉永部会長

登録していないというチェック欄は必要あるのか。まだ十分に広まっていない中で入れるのは少し早いかなという気もするが、逆に掲載することで周知に繋がることもある。最後のページくらい詳細な説明があるといいと思うが、冒頭の説明だけではわからない。

近藤委員

エンディングノートの作成に携わったが、事業チラシをエンディングノートに付けるのは構わないと思うが、チェック項目を入れることでエンディングノートの本来の姿からずれていってしまう気がする。あくまでエンディングノートは、自分の今後のことや考えを記載するためのものであり、そこに事業が関連づいていくことは当初は想定していなかったのではないかと。

先程ケアマネージャーへのエンディングノートの配布数が少ないといった話もあったが、たしかに事業所にエンディングノートを置いていたところは少なく、まだまだ事業に結び付けるほどにはエンディングノートも周知できていないと思う。

矢野委員

チェック欄が赤字になっているが、そのまま印刷されるのか。

また、項目ごとにチェック欄を設けずに、事業の紹介のところに登録・伝達事業に登録しているかというチェック欄1つ設ければいいのではないかな。

事務局

赤字となっているのは、今回の部会用であり、印刷時には黒字の予定である。

石上委員

終活情報登録はいい事業だと思うが、各ページにチェック欄がある必要はないと思う。

成島委員

エンディングノートに事業案内を掲載するにしても、この事業が誰にとってどういったメリットがあるというのがもう少しわかりやすいといいと思う。

石井委員

訪問看護ではまだエンディングノートはあまり広まっていない。契約時にターミナル期の方にはそういった話はするが、あまり受入はよくない。高齢の方はエンディングノートに抵抗があり、登録制度にも抵抗があるとなると、エンディングノートとこの制度のどちらを先に取り掛ければいいのかな。

吉永部会長

エンディングノートが先に出来上がり、その後終活情報登録・伝達事業の話が挙がってきたが、近藤委員が言うようにエンディングノートの普及がまだまだという段階で、また新しい物が入ってきてハードルが上がってしまうと本末転倒である。現時点では、こういった事業も始まっているというお知らせ程度がいいのではないかな。

小作委員

伝達事業の登録内容にエンディングノートの保管場所もあり、登録制度を活用した際に配布されたカードから情報が伝達され、エンディングノートにたどり着くと思うので、エンディングノートに登録状況入れてもどこまで有効なのかなというのが正直なところである。

吉永部会長

事業チラシは載せてもいいと思うし、認知症のものを忘れ健診にも絡めいくのもいいと思う。

②報告事項

事務局

資料説明 在宅医養成研修等について（資料２）

吉永部会長

在宅医養成研修とは別に、市民向けの講座はどうするか。

事務局

出前講座という形でやっており、市が人を集めて講座を開くというのは昨年度はやっておらず、今年度も現時点では予定していなかったが、やった方がいいなど意見があれば伺いたい。ただ、現状組回覧なども制限があることもあり、人を集めるのはなかなか難しい状況である。

吉永部会長

やった方がいいのではないか。公開講座という形でやれば、それなりに参加してくれる方はおり、そういう場に参加してくれる方は周りに発信してくれる方が多い。

矢野委員

使い方の解説といった内容であれば、動画として保存し、期限を区切らずチュートリアルのように残しておくといいのではないか。

成島委員

在宅医養成講座について、本日お集りの皆様が求める在宅医像があれば教えていただきたい。

近藤委員

高齢の利用者様だと外に連れ出すことが難しくなり、ご家族も高齢化してくると医療機関に連れていくのも一苦勞である。その中で、眼科の先生で往診に来てくれたことがあった。高齢の方で目が見えづらくなって認知が進むといったことが増えてきているが、なかなか眼科の往診というのは今まで経験したことがなかったので、眼科にも往診できるシステムがあると非常によいと感じた。内科も皮膚科も歯科医も往診してくれるが、眼科は有難かった。

吉永部会長

眼科などのように内科や外科以外の在宅医療に関しては我々も把握していく必要がある。そうすれば我々が困った時に相談することもできるし、そういう意味では成島先生のお力

添えて実施した褥瘡の研修により、皮膚科などは取っ掛かりができてきている。

市民向けの講座に関しては市の方である程度検討していただきたい。

その他、全体で何かあるか。

小作委員

高齢者実態調査に ACP の調査を加えるといった話だが、実態調査は結構ボリュームがある調査なので、最後の方は疲れてしまい、回答がいい加減になってしまうこともある。そのため、この調査でどこまで市民の意識を図ることができるか疑問である。

事務局

おっしゃるとおり、実態調査は質問数が多く、回収率がいいが、回答率は2～3個しか回答が入っていないといったことが多いのが現状である。そのため、ACP の質問を入れるにしても、そんなにたくさんは入れられないと思っている。

実態調査と別でやることも検討したが、静岡県も ACP の質問を盛り込むということだったので、一体的にやることとした。この調査はこの調査として、他に高齢者が集まる機会などがあれば、そういった場で意見を求めて補完していきたい。

<閉会>

■議事録確認署名

「令和7年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第1回啓発研修部会・地域支援部会の合同会議 議事録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 啓発研修部会 部会長

氏名(署名) 吉永 昭彦